

たいよう新聞

470号

3月10日発行

全力前進!

2年目社員の

成長記録!



現場の安全を守るため、確かな使命感で業務に挑む入社2年目の社員たち。日々成長を遂げる中、仕事の醍醐味や達成感も抱き始めているようです。次なるステップを目指して進む、熱意あふれる姿をご紹介します。



名古屋支店
工事部 Wさん

成長を感じたところ

実践を経て専門用語・知識が深化した

工事器具の名称や専門用語が理解できるようになったことが大きな成長です。初めの頃は上司や業者の方々が用いる言葉が全く頭に入らず、困惑することが多くありましたが、現場経験を積むうちに少しずつその意味を掴むことができました。また、疑問に思ったことは過去の資料を遡って調べたり、周囲の先輩方に質問したりして、疑問をそのままにせず解消する努力をしました。

やりがいを感じる瞬間

自身の努力が現場の安全に寄与できたと実感するとき

現在私は下水管の管路工事に従事しており、地面を掘削する際には土が崩壊しないように薬剤を注入して、施工の下準備を行っています。私が立てた地山がしっかり機能し、作業を引き継いだ業者の方から「無事に工事が終わったよ」と声をかけられる瞬間は、安全な現場作業に貢献できたと感じ、達成感に満たされます。

ズバリ!これから頑張りたいこと

今年中に2級土木施工管理技士の資格を取得し、将来的には1級の資格も手に入れたと考えています。また、先輩ができたため、しっかりと指導できるよう技術や知識を一層深めていきたいと思います。



大阪支店
工事部 Nさん

成長を感じたところ

人との信頼は、何気ない会話から生まれると実感

書類作成の段取りや現場に行く際の準備作業、現場の方々とのコミュニケーションなどをスムーズに行えるようになりました。特にもともと苦手意識の強かった作業員との関係性構築は、休憩時間に積極的に雑談するなど話しやすい雰囲気作りを心がけたことで克服。より意思疎通を図れるようになったと感じています。

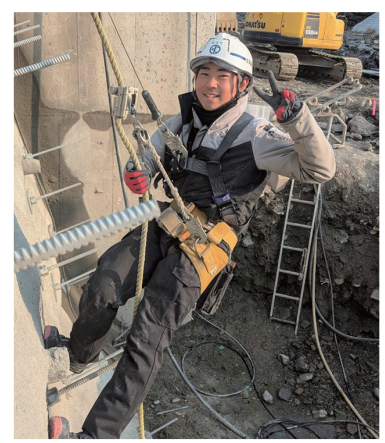
やりがいを感じる瞬間

周りのサポートと自らの努力が形になった瞬間

1か月以上続くような長期現場が終わったときの、「やりきったぞ!」という達成感は格別です。現在はまた、社内外の様々な方からアドバイスをもらいつつ、自分なりに工夫しながら現場を進めている状態。だからこそ現場が完成した際には、周りへの感謝の気持ちと自分の努力が実を結んだ喜びでいっぱいになります。

ズバリ!これから頑張りたいこと

土木施工管理技士の資格取得です。今後もっと大規模な現場に挑戦できるよう、まずは2級の取得から挑戦。普段の仕事でも立ち回りができるよう、先輩方のアドバイスをしっかり聞いて経験を重ねていきます。



九州支店
工事部 Nさん

成長を感じたところ

自分の力で判断できることが増えた

この1年、同種の工事にいくつか携わる中で、同行してくださる上司からの問いかけに徐々に答えられるようになりました。与えられた仕事に真摯に向き合い、不明点があればその都度質問する。その繰り返しを経て、次第に実力がついてきたと実感しています。

やりがいを感じる瞬間

一つひとつの経験が大きな成果を形作る

担当している工事が終わり、引き渡し後の現場へ訪れるとき。何もなかった場所にここまでものを作り上げられたという充足感、かけがえのない特別な感情です。また、1人で現場作業を進めた経験も、大きな達成感を抱かせてくれました。2023年夏、上司が約1か月現場を離れていた期間は、私がすべての段取りを担当。上司の帰還までやり遂げられたことは、キャリアの中でも大きな自信となりました。

ズバリ!これから頑張りたいこと

これから入社する後輩に負けたくないため、まずは1人で現場を担当できるようになることが目標です。また、上司に追いつき、追いつく気概を持ち、先を見越した段取りやアイデアの提案ができるよう成長していく所存です。



東京支店
埼玉営業所 Sさん

成長を感じたところ

ひたむきな対応力が信頼に直結

社外からの信頼度が目に見えて向上しました。例えば、現場でのトラブル対応の場面。これまでは、まず直属の上司に連絡が入り、その都度必要な指示を仰ぐ必要がありました。今ではある程度の判断力がつき、経験から解決策を導き出せるように。担当の私に直接相談していただける機会も増えてきました。

やりがいを感じる瞬間

上司の力を借りずとも、自分で解決できるように

現場では、施工の金額や工期など、契約面での知識を問われることがあります。入社当初は答えに詰まる場面もありましたが、先輩や上司のサポートもあり、徐々に知識を習得。他案件の内容を応用してうまく処理できたときは、大きなやりがいを感じます。

ズバリ!これから頑張りたいこと

当面の目標は、2級土木施工管理技士を取得することです。そのためには、多様な講習を受講するだけでなく、自主的に知識を広げる必要があります。畑違いの分野にも視野を広げ、管理と営業の両方で力をつけていければと考えています。

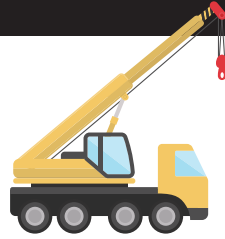
最前線レポート

工業用水道 東寺尾送水幹線口径1100mm 更新工事(その1)

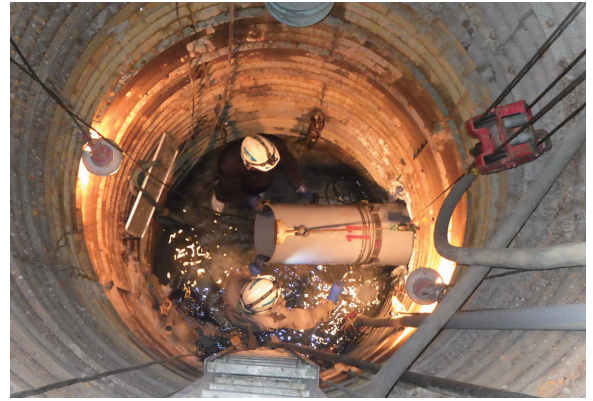
太洋基礎工業が請け負ったさまざまな工事を紹介するこの企画。今回は高架下での排水管敷設工事です。場所が非常に狭く、上空制限もあったという今回の現場について、東京支店工事部のMさんにお話を伺いました。

現場概要

施工期間	2024年7月22日～10月1日
場所	神奈川県横浜市神奈川区三枚町
発注者	横浜市水道局様
元請会社	大豊・森本・土志田建設共同企業体様
一次下請会社	太洋基礎工業株式会社
現場体制	太洋基礎工業株式会社1名 他3～4名
施工目的	工業用水道の新設工事に伴い、鋼製さや管推進工法にて、 排水管の敷設工事を実施



高架下での揚重作業



本管挿入状況

東京支店 工事部

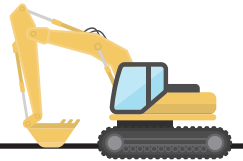
Mさん



現場の特徴

施工場所は横浜市神奈川区の市街地。施工ヤードを設けることもできないほど、スペースに余裕がありませんでした。また交通量が非常に多い幹線道路でもあったため、車上プラント施工を実施。常に多くの車が行き交うなかで工事を行いました。

苦労した点と乗り越え方



上方向にも横方向にも制限があるなかでの作業

発進立坑を高架下に築造していたため、施工中はほとんどが高架下での作業となります。そのため、クレーンでの揚重作業は常に上空制限があり、既存の高架や既設構造物との接触に注意が必要でした。今回行った対策は、以下の3つです。

① 工事車両を入れる順番を事前に検討

限られたスペースしかなかったため、無計画に工事車両を入れると、必要な車両が適切なタイミングで入れなくなってしまいます。そこで、事前に車両を入れる順番を計画し、無駄な出入りをなくしました。

② クレーン作業の計画書を全員に周知

現場の真上には高架があるため、揚重作業を行う際は上空制限が発生します。制限に合った適切な吊具を準備するとともに、作業当日はクレーン作業の計画書を作業員全員に周知。接触事故の防止に努めました。

③ 掲示物や旗を活用して注意喚起を徹底

万が一にも接触事故を起こさないよう、作業員の目の届くところに掲示物や旗を設置。またクレーン作業を行うときは、専任の監視員も配置しました。

今回の現場で学んだこと



仕事は自分1人ではできない

現場を運営する上で常に意識しているのは、周りの方々とのコミュニケーション。密にやり取りを行い、仕事以外の話もできるようにできれば、現場の雰囲気は良くなります。そうすることでみんなが声を出しやすくなり、安全意識も高まっていくのです。今回、事故も遅延もなく全工程が終わったとき、改めてコミュニケーションの大切さを実感しました。

幹線道路上での施工状況



印象深かった出来事

交通誘導員の方がスズメバチに刺されてしまいました。大事には至らなかったのが不幸中の幸い。屋外で作業をするときは、常に危険が潜んでいるという教訓になったと思います。皆さんも気をつけてください。

KEEP OUT

KEEP OUT

KEEP OUT

声援

スピードの重要性

限られた時間の中で成果を出すためには、スピード感が重要だと改めて感じています。作業スピードそのものもそうですが、特に重要なのは、早めに着手すること。早い段階で気付ければ、問題点があっても軌道修正がしやすくなります。着手して初めて「想像していたよりも時間がかかりそうだ」と気づくこともあるはず。早めに着手することで、かけるべきところに時間を割くことができます。

スピード感のある人は、スケジュール管理や優先順位の付け方が上手く、完璧を求めすぎて1人で行き詰まることもありません。途中で違う仕事に移ったり、マイペースに進めたりせず、チームワークを大切に、全体を見ながら判断することがスピーディーな仕事に繋がるのだと思います。

段取りのポイントは想像力

難しい工事を無事にやり遂げ、利益に繋がる瞬間が一番のやりがいです。工程をスムーズに進めるコツは、段取りを疎かにしないこと。「ただ手順に則って計画を立てれば良い」ではなく、これまでの経験を活かして想像力を働かせ、リスク回避や迅速なトラブル対応に繋がっています。

また、行き詰まったときは無理をせず、一度別の作業を挟むことで考えをリセットするようにしています。これは「スピードの重要性」で述べた「何の気なしに途中で違う仕事に移る」とは異なり、敢えて頭を切り替えるために別の作業を挟むのです。先を読みつつ抱え込み過ぎないことが、楽しく効率的に仕事を進める秘訣です。



東京支店 工事部

Sさん

冬道はここに注意!

車での移動が多い皆さん、冬の道路は危険がいっぱいです。事故を起こさないよう注意点を認識しておきましょう。

事前準備

前日の天気や気温によって、路面状態が左右されやすい冬の道路。目的地までの道路状況や気象情報を事前に確認しておくで安心です。窓の曇り止めも用意しておきましょう。

冬の道路はココに注意!

急発進・急ブレーキ

冬の道路は滑りやすいのが特徴です。急発進や急ブレーキはハンドルのコントロールを失う原因になるため、余裕を持って運転することが大切です。特に交通量の多い幹線道路は、雪が踏み固められて氷のような状態になっていることも。このような路面は「圧雪」と呼ばれ、坂道や交差点ではタイヤの空転によって磨かれ、より滑りやすい状態になっている可能性があります。速度を控え、エンジembreキも併用しながら走行することを改めて意識してみましょう。

ブラックアイスバーン(路面凍結)

例えば、良く晴れて気温が上昇した日は、昼間に解けた雪が気温の低下とともに凍ります。特に注意が必要なのは、濡れたアスファルトのように見える「ブラックアイスバーン」です。特徴は、見た目だけでは路面凍結かどうか見分けるのが難しいこと。夜間は周囲の暗さも非常にわかりづらいため、細心の注意が必要です。発生しやすい場所は、風を遮るものがないトンネルの出入り口や橋の上、日陰の部分など。慣れているからこそ、つい見落としてしまう可能性も否定できません。滑ることを前提に、さらに慎重な運転を心がけてください。

